

<令和 6 年度国際遠隔講義を実施>

今年度は 9 月 3 日から 12 月 17 日の毎週火曜日全 15 回に亘り、国立台湾大学を中心にタイのコンケン大学、国立シンガポール大学、ブルネイ・ダルサラーム大学及び本学をオンラインで繋いだ、国際遠隔講義を実施しました。各国講師から最新の産業医学・産業保健分野の講義を受講する貴重な機会である本講義は、本学からも多くの教職員及び大学院生が受講し、毎回活発な質疑応答が見られました。

本学からは、下記のとおり 4 名が講義を提供した他、大学院生らも初めて学生発表に参加し、自らの研究内容について発表しました。

<9 月 10 日>

「我が国における職場のメンタルヘルス対策の現状と今後」

産業精神保健学 江口 尚 教授

<10 月 1 日>

「健康と生産性の関係：日本における健康経営の取り組みと関連研究からの知見」

産業保健経営学 森 晃爾 教授

<10 月 8 日>

「溶接作業従事者を対象とした疫学調査から得られた知見」

衛生学 辻 真弓 教授

<11 月 5 日>

「ばく露に対するリスク軽減法」

労働衛生工学 東 秀憲 教授

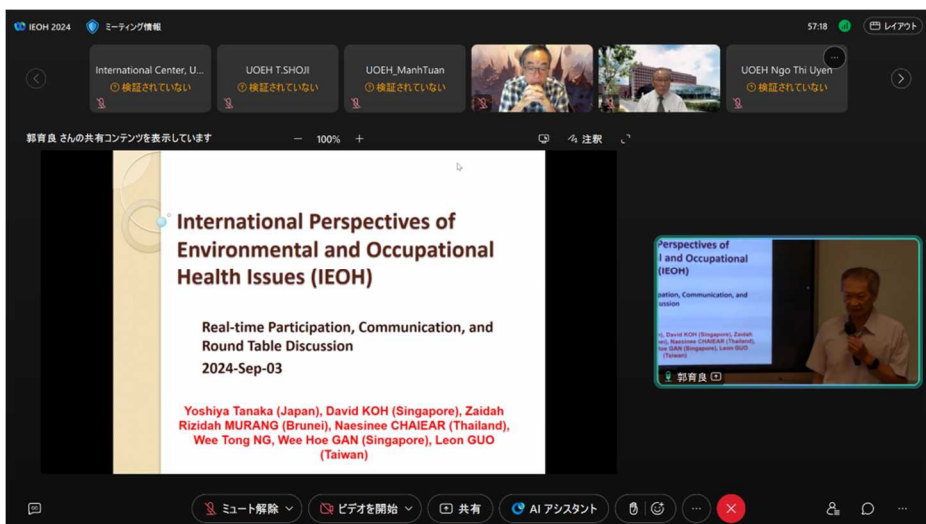
<12 月 3 日>

「研究紹介」

酒井 一輝（人間工学・大学院生）

Sutharat Chamnanchang（産業精神保健学・大学院生）

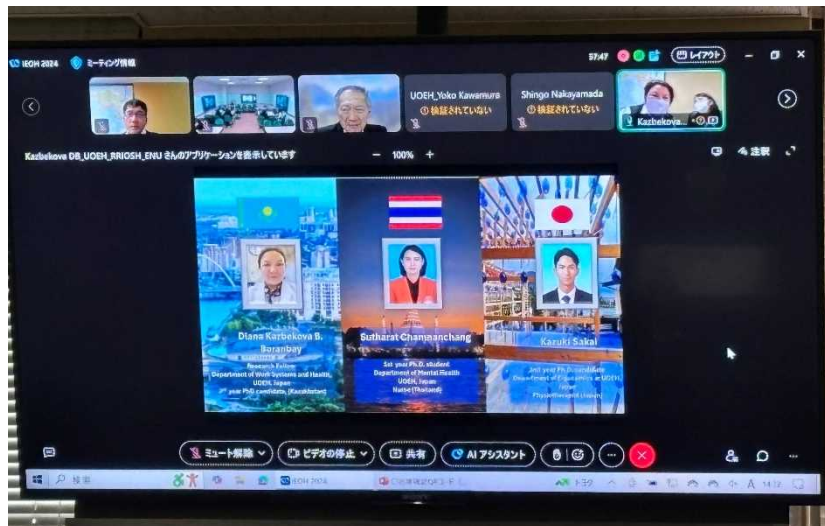
Diana Kazbekova（作業関連疾患予防学・海外流動研究員）



講義の様子



本学からの講義の様子



本学大学院生らによる発表資料



大学院生らによる発表の様子